

特集
長崎の海と
漁師たち



特集 長崎の海と漁師たち

28 海には夢しかない。
船団を司る漁撈長という生き方

42 宝の海よ、ふたたび
ベテラン漁師の恩返し

58 野母崎の海にかけける親子船

漁師町の風景

18 初競り 長崎魚市場

52 二十日恵比須

76 まち協もやい場 奈留島どがんね

寄稿

66 私たちの夢の島
文・藤田智美

raku column

1 花鳥山水時絵煙草盆 文・出口洋平

6 長崎の花水、その生命に物語がある。 第五回

日本最古の洋ラン グラバーさんと花 文・小南寿子 絵・石橋 澄

90 ぐあふだにひらいておきたいふるさとをの味 第五回

瑞泰製麺所

96 福江のタイのシン 第三回

寿限無寿限無南無阿弥陀仏♪ 念仏子守唄おまじない 文・絵・岡野 雄一

体験しないクルーズを書く。

豆柴とガイドブック作りの攻防戦 文・藤原 暢子 絵・石橋 澄

120 明治大正昭和の長崎を語り 第二回

旧日見トンネルの開通

raku special presents

新連載

8 マネオの半島探検 "I think you are a man" 第一回

キヤバレー銀馬車 文・古田 沙織

105 読み切り短編連作「ながさきの海」第六十四回

かりほる島 文・青木 有一

112 知られざる長崎開港史 第二十七回

東山手甲13番館に魅せられて 文・ブライアン・パークマン

regular contents

82 長崎美術新館 学芸員 松久 保修平さん

ながさきの文 第四十回

98 活版印刷は長崎から始まった。

126 読者プレゼント

特集

長崎の海と

漁師たち



撮影 山頭範之

豊穣の海に恵まれたこの
まちにとって、彼らの存
在が重要であるのは、昔
も今も変わることはない。
刻々と表情を変える空の
色を見て、頬を撫でる風
の流れを読む。気まぐれ

な自然の機嫌を伺いなが
ら、大海に漕ぎ出す漁師
たち。黙々と釣り糸を垂
らし、ひたすら網を打ち
続ける命がけの日々に、
彼らは何を思い、そして
願いを託すのだろうか。
生月、琴海、野母崎、五島
列島へ、長崎の多様な海に
生きる漁師たちの日々を
見つめた。





漁船

海には 夢し かない。

船団を司る 漁撈長という 生き方

文、坂爪知奈津

「アット」。

まだ夜も明けきらぬ大海原に勇ましい声が響き渡る。それを合図に、男たちは海に巨大な網を下ろす。彼らの願いはただ一つ、大漁である。

平戸と生月を結ぶ生月大橋のたもとに広がる小さな町・館浦は、全国屈指のまき網漁業の基地として知られている。まき網漁業とは魚の群れを探し、帯状の一枚の網で囲い込んで獲る漁業で、それぞれの役割を持つ網船、灯船、運搬船などが船団を組んで、操業を行う。

約五十名の乗組員のトップに立つ船団の最高責任者は「漁撈長」と呼ばれている。漁におけるすべての采配を握るこの漁撈長こそ、船の命運を握る人物である。





ふ
た
た

宝
の

ベテラン漁師

の恩返し

文、大田尚子
Text by Naoko Ohta



た
び

海
よ

漁獲量の減少や後継者不足。
日本の漁業全体が抱える問題は、ここ大村湾でも同様だ。
かつての豊穡の海を取り戻す……。
大村湾の入り江を訪ね、あるベテラン漁師の想いを聞いた。



野母崎の
海にかける

文、坂井恵子
Illustration by Mikiya Nakano

親子船

高波を受け大きく揺れる船上で、獲物が喰った糸を手繰り寄せる。野母崎の海に生きて65年の馬場広徳さん、野母崎の海に生きることを決めた大将さん。親子であり相棒でもある二人の漁を追った。

奈留島

寄稿

私たちの夢の島

文、鎌田智美



奈留島



ここは五島列島・奈留島。
私たちはそれぞれの目的で
この島にやってきた。
夫は漁師になるために、
私は友人との釣り体験に。
一人で漁師になるはずだった夫と
一泊二日で帰るはずだった私は、
この奈留島で出会い、
家族になった。

まち協もやい場 奈留島どがんね

文、大口尚子

五島列島の中心に位置する奈留島は、福江港から高速船で三十分。長崎から気軽に行ける二次離島であり、島内には世界文化遺産構成資産「奈留島の江上集落」を擁する。

島内をめぐる前に、まずは腹ごしらえでもしようか。そんな時、港から徒歩五分のこの食堂の看板が目に入るだろう。「まち協もやい場 奈留島どがんね」は、クラウドファンディングで完成した地域の交流拠点。提供曜日は限られるが、料理上手な地元の皆さんが作る「お魚定食」や魚介たっぷりの「海鮮カレー」をいただくことができる。もちろん使用しているのは奈留島の鮮魚。

港に到着したら
奈留島の
鮮魚を味わう